

ベネズエラ

<2005年の注目すべきポイント>

2005年9月に、チャベス大統領は、天然資源の国営化を宣言し、国営鉱山会社の設立、既存鉱業権の見直し、新規鉱業権付与の制限等、鉱業政策の大きな転換を行う旨発言したことで、一時、鉱業関係者の間に動揺が広がったが、現在のところ、金探鉱開発の中心とした進行中のプロジェクトには大きな影響は出ておらず、世界有数の金山として注目されている Las Cristinas (Cryatallex 社) などの政府承認手続きは順調に進捗しており、近いうちに開発工事が開始される見込みである。

1. 非鉄金属一般概況

ベネズエラの産業の中心は石油関連産業（輸出額の約80%、国庫歳入の約50%、国内総生産の約25%を石油に依存）であり、石油産業への依存度が極めて高い。これに続く輸出産業は鉄鉱石とアルミであり、鉄鉱石は年産2千万t程度、ボーキサイトは年産5百万t程度を輸出している。

この様な状況の中で、同国の非鉄産業は、金とニッケルにほぼ限定され、輸出品目の一つとなっている。政府は、非鉄産業の発展を期待し、1999年9月には新鉱業法、2001年3月には同施行細則を定める等、鉱業投資の促進を図っているが、現在は、地質ポテンシャルが高く、市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。この中でも、Bolivar Gold 社(加)と国営の CVG Minerven 社の JV(95%/5%)により開発が進められていた Choco 10 金鉱床が2005年8月より操業を開始し、一方、Gold Reserve 社(加)による金・銅鉱床である Brisas 金・銅鉱床や、Crystallex 社所有の Las Cristinas 金プロジェクトも現在開発待ちの状況にある。

このように金を対象とした外資の動きが活発化している中、同国チャベス大統領は、2005年9月、天然資源の国営化を宣言し、国営鉱山会社の設立、既存鉱業権の見直し、新規鉱業権付与の制限等、鉱業政策の大きな転換を行う旨、発言し、一時、鉱業関係者の間に動揺が広がったが、現在のところ、進行中のプロジェクトについては、政府の承認手続きが進行しており、大きな影響は出ていない模様である。

2. 鉱業政策の主な動き

2005年9月にチャベス大統領が言及した鉱業政策転換のポイントは以下のとおり。

- ・今後、外資企業等に対し、金、ダイヤモンド等の鉱業権は付与しない。
- ・既に付与している鉱業権、民間との鉱業契約を見直し、休眠状態にある場合はこれを取り消す。
- ・既に鉱業権を保有し操業中にある鉱山は、引き続きこれを認める。

現在、鉱業・基礎産業省によって、各鉱区における調査の進展状況を精査中であると言われている。また、鉱業・基礎産業省は、国家管理を強化する目的で、国営地質・鉱業会社の設立を検討していると伝えられている。この組織の最優先課題は、零細採掘業者からの鉱石(金、ダイヤモンド)買い取りで、これにより、これらの鉱業活動による鉱業生産と鉱害(水銀汚染等)に対する管理が容易になるとしている。また、本国営会社は、鉱業活動を巡る地元コミュニティとの社会的問題の解決にも取り組むことをうたっている。さらに、鉱業・基礎産業省は、上記の政策転換に加え、環境保護を盛り込んだ鉱業法の改正に着手しており、2006年内にその内容が明らかになる模様である。

なお、一時、Las Cristinas (Cryatallex 社) など大型金鉱山開発案件が、国有化の対象として伝えられ、関係者の間に混乱と動揺が広がったが、本プロジェクトを含め、進行中のプロジェクトについては、政府の開発許可手続きは、若干遅れ気味ではあるものの、進められており、現在のところ、目立った影響はないものと見られる。

3. 主要鉱山物の生産・輸入・消費・輸出動向

金の2005年の生産量は、前年並の14.0t (Raw Materials Data)に留まった。内訳は、2005年8月に、新たに操業を開始した Choco 10 金山 (Gold Fields 社) から約1.4tが生産され、国

営の Mineven 社の鉱山が、過去最高の 3.6t の生産を記録したものの、主力の La Camorra 金山 (Hecla 鉱山社) が品位低下等により約 1t の減産 (3.2 t) となった。その他、Crystallex International 社の Tomi 金山 (Anglo American 他) は 1.65 t (2004 年は 1.5t) であった。

ニッケルの 2005 年生産量は、16.9 千 t (前年 17.4 千 t) であり、大部分は Loma de Niquel 鉱山から生産され、全量、フェロニッケルとして主に、オランダ、イタリア、英国等の欧州諸国に輸出されている。

4. 鉱山会社活動状況

現在、当国において特筆すべき鉱山会社はない。

5. 鉱山・製錬所状況

(1) 鉱山

以下、主要鉱山について生産動向を述べる。

① Loma de Niquel

首都カラカスの南西 80km に位置するニッケル鉱山 (Anglo American 他) で、同国ニッケル生産の大部分を生産し、フェロニッケルとして欧州諸国に輸出している。2005 年のニッケル生産量は、前年比 500t 減の 16,900t であった。

同鉱山は、開発投資額約 500 百万ドルにより、2001 年に操業を開始したラテライト型の露天掘ニッケル鉱山で、現在の鉱量は 41 百万 t (ニッケル 1.6%)、山命は 30 年と言われている。

② La Camorra

ベネズエラ東部の Bolivar 地域に位置する当国最大の金山 (Hecla Mining 社 (米) が操業) で、2005 年の産金量は 3.2t と 2004 年の 4.1t を大きく下回った。また、キャッシュコストも、品位低下、エネルギーコストの増大等で 2004 年の:180 ドル/oz から 2005 年は 337 ドル/oz と 87%増加した。2006 年は、本鉱山の北 110km に位置する Mina Isidora 金山 (産金約 10 t、品位 31g/t) が生産を開始する予定であることから、生産量の増加が見込まれている。なお、La Camorra 金山は、高品位な鉱脈型金鉱床で、鉱量 (2003 年末) は 0.74 百万 t (金 22.9g/t) である。

③ Choco 10

本鉱山は、ベネズエラ東部の El Callao 地区 (Bolivar 地域) に位置する鉱染型金鉱床で、Bolivar Gold 社 (加) と国営の CVG Minerven 社の JV (95%/5%) により開発が進められ、政府からの最終許可が遅れ、予定より半年遅れの 2005 年 8 月に操業を開始した (粗鉱処理量 5.4 千 t/日)。2005 年の生産量は約 1.4t であった。

なお、本鉱山の初期開発投資額は 38.6 百万ドルで、現在の鉱量は 21.4 百万 t (金 1.9g/t)、年産産金量 18 万 oz、生産キャッシュコスト 159 ドル/oz、山命 6.5 年と言われている。

本鉱山については、2006 年 3 月に、南アの産金大手である Gold Fields 社が、カントリーリスクの高い同国への投資に反対する一部の株主の声を押し切り、Bolivar Gold 社を 320 百万ドルで買収した。Gold Fields 社によれば、2006 年はフル生産となり、産金量は 12~14 万 oz/年に達する見通し。なお、本鉱床の周辺地区 (Choco 1, 2, 9, 12, 13) でも鉱区を取得し、探査を行っている。

(2) 探鉱開発

現在は、地質ポテンシャルが高く、市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。

以下、主要プロジェクトについて探鉱開発動向を述べる。

① Las Cristinas

本鉱床は、ベネズエラ東部の Bolivar 地域に位置する、鉱染型の大規模低品位金鉱床 (産金約 1,360 万 oz) で、世界でも有数の未開発金鉱床として注目されている。Crystallex International 社 (カナダ) が開発権を有するが、既に 2003 年 9 月に F/S を終了しており、F/S によると、初期開発投資額は 293 百万ドル、露天掘採掘と CIL 法の採用により年産産金量 30 万 oz を計画している。

チャベス大統領による国営化政策の影響で、本プロジェクトの行方が懸念されていたが、2006 年 3 月、ベネズエラ政府は同プロジェクトの F/S で経済面、技術面なども含め調査した結果、本プロジェクトが同国にとって重要なプロジェクトになると判断し、Crystallex 社に

対し、Las Cristinas 鉱山開発を承認した。これを受け、Crystallex 社は、環境庁からの最終承認が得られ次第、建設工事に着手するとしている。

② Las Brisas

本鉱床は、Las Cristinas 鉱床に隣接する鉱染型金・銅鉱床で、本鉱床を保有する Gold Reserve 社(加)は、2005年1月、開発を決定した。すでに、開発のための環境・社会影響評価調査を提出済みで現在、政府の承認待ちの状態。2006年上半期中には承認が得られるとの見通

しで、工期2年で、2008年内の操業開始を計画している。

開発規模は、初期開発投資額552百万ドルで、産金量48.7万oz/年、産銅量2.9万t/年、銅クレジットを考慮した金の生産キャッシュコストは153ドル/oz、山命16年である。現在の鉱量は414百万t(金0.69g/t、銅0.13%)である。

6. 我が国との関係

非鉄鉱業分野におけるわが国企業との事業関係、輸出入関係は、現在は見られない。

(2006.6.15/リマ事務所 西川 信康)